

平成 26年度 山口県立徳山高等学校(本校・全日制) 学校評価書 校長(藤澤 正信)

1 学校教育目標	
(1) 勢いと動きのある学校づくり	① 学年、分掌、事務室等との連携による組織力の一層の向上 ② 現役合格率の更なる向上及び部活動・学校行事等の一層の充実(→「文武両道」の継承) ③ SSHの全校的な協力体制による推進 第Ⅱ期申請に向けた検討 ※SSHを活用した全校生徒の人間力アップ ④ 積極的な情報の発信(→学校HPの充実・迅速な更新)
(2) 生徒や授業が自慢の学校づくり	① 文武両道を継承し、品格と教養のある生徒の育成 ② 心の教育の進展と生徒相互の信頼関係の確立 ③ わかる授業及び興味・関心を高める授業の展開 ④ 授業評価に基づく授業の改善・充実
中・長期目標 …… 伝統を継承し、相互の信頼感を深め、不断の努力によって学力の充実した心身ともにたくましい生徒を育成	

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて) 省略

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題

- 総務課:本・分校の式典・行事・会議等は、二分校体制を踏まえて更なる円滑な連携を行う。ホームページは、掲載内容に関するビジョンを確立し、積極的に情報発信を行う。
- 教務課:科目選択等のガイダンスをより組織的に行う体制を確立する。校務支援システムの円滑な運用に向けたハード面・ソフト面の環境を整備する。
- 生徒課:登下校時の交通指導や車中指導を強化するとともに、二大行事では事前指導の徹底や6月のより円滑で学習とのバランスの取れた準備活動とする。
- 進路指導課:きめ細かな個に応じた進路指導を継続するため、学習計画表の作成等による主体的な学習への取組を指導するとともに、課外について今後内容や教科等を更に充実させ
- 教育相談課:引き続き効果的な研修会、講演会等を実施するとともに多様な生徒への支援の在り方のノウハウを更に定着させる。
- 図書視聴覚課:読書活動の一層の推進と貸し出し図書の延滞防止等図書室利用マナーの更なる向上を図る。
- 厚生課:校内美化の一層の推進と雨の際の避難訓練を効果的な実施。
- 情報企画課:セキュリティ体制の一層の強化、緊急メールの携帯端末への適切な配信対応。
- 保健体育課:自主自律的な行動にむけた指導の一層の推進と、総務委員のリーダーシップとともに周囲の生徒のフォローシップの定着を図る。
- 理数科:第Ⅰ期SSH指定最終年度を迎え、第Ⅱ期申請に向けて現状の取組をどのように深化・充実させるかを検討し確定させる。
- 各学年:低学年から進路の目標を明確にもたせ、それに向けた主体的な学習習慣を確立させるとともに、家庭との連携を強め、支援を必要とする生徒への継続的な支援を行う。具体的な進路希望に向けて受験意識を高くもって主体的に学習に取り組ませる。行事等を通してリーダーシップ等将来社会で活躍できるための高い人間力を育成する。
- 業務改善:本校全日制・定時制・両分校の円滑な運営のための連携体制を確立する。二大行事やSSH事業の具体的な工夫改善を図る。明るく元氣な職場環境づくりに努める。

4 自己評価

評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析
総務課	○式典、諸行事、諸会議の円滑な運営を行う。	○式典、諸行事、諸会議を全教職員の協力により円滑に実施する。	4:全教職員の協力の下、円滑に実施することができた。 3:円滑に実施できた。 2:改善すべき点があった。 1:改善すべき点が多かった。	4	すべての、行事・式典・諸会議とも全教職員の協力により円滑かつ順調に実施できている。
	○分校、地域、家庭との連携を強化する。	○本校、分校間の連携を強化し交流を促進する。保護者の要望や意見の集約を行いPTA活動を活性化させる。	4:十分に連携、交流ができた。 3:連携、交流ができた。 2:連携、交流が不十分であった。 1:連携、交流ができなかった。	3	学校要覧や入学案内、学校新聞に分校の情報を掲載するなど情報面では連携がなされている。分校生徒の本校行事への参加等の課題が残る。
	○ホームページの充実とホームページを利用した積極的な情報発信を行う。	○ホームページの内容の検討、迅速な更新を行い積極的な情報発信を行う。	4:ホームページが充実され積極的な情報発信ができた。 3:ホームページの更新を定期的に行い情報発信に努めた。 2:ホームページの更新、情報発信が十分でなかった。 1:ホームページを活用した情報発信ができなかった。	3	昨年度に続き、学校説明会の案内や運動会、徳高祭のプログラム等を掲載し、積極的な情報発信に努めている。今年度は教頭による徳高ジャーナルの掲載も始まった。掲載内容について校内の連携が課題である。
教務課	○総合学習(キャリア教育)の充実	○生徒の進路実現を支援する校内体制の強化と確かな学力を育むための年間指導計画の充実と実施	4:校内体制を構築するとともに年間指導計画の充実、実施を果たせた。 3:校内体制を構築したが、年間指導計画の充実、実施が十分果たせなかった。 2:共通理解は図れたが、校内体制が機能せず年間指導計画の充実が不十分だった。 1:共通理解が図れず校内体制を構築できなかった。	4	生徒の進路実現を支援する校内体制のもと、魁講座を軸とした総合学習を通してキャリア教育の充実が図れた。
	○教育課程の充実と更なる研究	○生徒の進路実現に適切に対応する教育課程の編成と教育活動をスムーズに展開するためのガイダンス機能の充実。	4:学年、教科間で生徒の特性を共通理解できるとともに、ガイダンス機能が充実できた。 3:学年、教科間で生徒の特性を共通理解できたが、ガイダンスが不十分だった。 2:学年、教科間で生徒の特性を把握できたが共通理解が図れず、ガイダンスが不十分だった。 1:学年、教科間で生徒の特性を把握できず、ガイダンスが不十分だった。	4	単位制導入に伴い、学年・教科と連携を図りながら、教育課程の変更や教務内規の見直し、行事予定や日程を検討してきた。年間指導計画のもとで、生徒の進路実現を支援する教育体制が強化された。
	○校務支援システムの運用	○出席処理、成績処理、調査書・指導要録作成などの校務支援システムの円滑な運用。	4:校務支援システムの運用に向け課題を明確にでき、順調な運用が始まった。 3:校務支援システムの運用に向けての課題を明確にでき、課題解決に向けての方向性を見つけれられた。 2:校務支援システムの運用にあたっての課題を明確にできたが、課題解決に向けての方向性が見つけられなかった。 1:校務運用システムの課題を明確にできず、課題解決に向けて方向性が見つけられなかった。	4	校務支援システムの運用にあたっての課題を明確にした上で、課題解決に向けての方向性を見つかることができた。
生徒課	○規範意識の確立	○頭髪服装の統一指導にとどまらず、不十分な生徒への継続的な指導を粘り強く進め、落ち着いた雰囲気の中で、生徒が学習に取り組めるような環境を作る。 ○生徒登校時の校門指導を毎日行うだけでなく、街頭や通学列車内等での指導を強化し、指導の日常化を図る。	4:掲げた目標を100%達成できた。 3:掲げた目標を80%達成できた。 2:努力したが課題が多く残っている。 1:目標が50%以上達成されていない。	3	10月末現在、5回の服装頭髪統一指導や、毎朝の校門指導を中心に粘り強く指導を行なっている。特に頭髪指導では、生徒課が中心となって、不十分だった生徒に対する個別指導を継続している。また、校内にとどまらず、生徒の活動や、定期考査など学校の日程の節目節目に街頭指導や車中指導を10回以上実施している。生徒と教師との関係も安定しており、生徒の健全な成長にとって、良い雰囲気を創り出すことができている。
	○学校行事の成功	○生徒自身が企画・運営する学校行事を通じて、さまざまな課題を克服することによって、達成感や自己有用感を育み、豊かな社会性や人間性を磨くことができるように指導し援助する。	4:行事の成功で生徒全員が成長した。 3:80%以上の生徒が満足できる行事となった。 2:生徒の自主活動や意欲が低調だった。 1:50%以上の生徒が不満を抱え見直しが必要である。	4	運動会・徳高祭の二大行事を中心に、実行委員会も活発に活動し、例年以上に盛り上がり、生徒の達成感や自己肯定感を育むことができた。特に3学年や保健体育科など関係分掌の協力の下、生徒の活動を指導し援助する体制を維持することができた。今後は、生徒一人一人の自立に向けて、生徒の成長に資する活動を仕掛けていきたい。
	○部活動の充実	○生徒の部活動加入を積極的に奨励し、学年を超えた生徒相互の自主的な活動を通じて、学校のさまざまな活動に主体的に取り組む生徒を育てる。 ○生徒と教職員の全体的な関わりの中で、自己の在り方や生き方が自覚できるよう指導し援助する。	4:部活動加入率が90%を超えた。 3:加入率が80%を超えた。 2:加入率が70%を切った。 1:加入率が50%を切り、1・2年の退部者が目立った。	4	生徒の部活動参加状況は、文化部運動部併せて約92%であり、学校全体に勢いと活気を与えている。

5 学校関係者評価

学校関係者からの意見・要望等	評価
○分校生徒が本校の行事(文化祭・講演会・模擬試験等)に参加する機会を充実してほしい。 ○ホームページの内容が充実してきたことは、開かれた学校づくりとして好ましい方向であるが、情報発信のビジョンや発信対象を明確にしてほしい。	A
○単位制の導入で、生徒の興味関心や進路実現に結びつく多様な選択科目が充実することは、大学入試改革に対応する備えとして必要である。	A
○携帯・スマホの使用に関する指導体制は確立できているか。1年間で何人の生徒が反省文を書いているのか。 ○二大行事の取組を工夫改善することにより、生徒は大学進学との両立を果たしていることは素晴らしい。 ○部活動については、運動部・文化部ともに成果が現れており、文武両道の校風は継承してほしい。	A

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
進路指導課	○目標達成のための学力養成と進路意識の涵養	○授業を中心としながら模擬試験、課外を効果的に実施して受験に必要な学力を養成する。 ○「進路だより」の定期発行やLHR、進路講演会、大学のオープンキャンパス参加、大学の模擬授業等で、生徒の進路意識の涵養を図る。	4:進路意識・学力が向上した。 3:進路意識・学力がやや向上した。 2:効果があまり見られなかった。 1:ほとんど効果が見られなかった。	4	模擬試験・課外の実施を通じて、受験勉強への意識や学力の向上に役立てることができた。特に課外の受講者が多いことから、新たな取組として1年生の夏季課外を全員受講とした。今後も内容、教科等さらに充実させていきたい。また、「進路だより」では各学年が工夫を凝らし時期に応じた情報提供をした。進路講演会やオープンキャンパス参加(今年度は九州大学と東京大学)等の実施により生徒の進路意識を高まった。	○トップ層を伸ばす取組は素晴らしいが、学力の底上げと、AO入試対策等の支援も必要である。 ○早期受験態勢の確立に向けて、具体的にどのような取組が行われているのか。	B
	○各学年の重点目標	○第1学年ー学習オリエンテーションを実施するなど、『予習・授業・復習』サイクルによる学習習慣の定着を図る。	4:生徒の家庭学習習慣が定着した。 3:生徒の予復習時間が増加した。 2:指導の効果が顕著に見えなかった。 1:指導が生徒の負担になった。	3	「学習オリエンテーション」等の4月当初の取組により「高校」の学習によりスムーズに適応した。また、週末課題の提出や学習計画表の作成を通じて、計画的に学習するよう指導した。		
		○第2学年ー学習計画表作成・受験アタック課外・模試の実施等により早期の受験指導の充実を促す。	4:生徒の受験取組が十分できた。 3:真剣に取り組み、学力が向上した。 2:取組んだがあまり効果がなかった。 1:生徒の取組みが低調であった。	3	学習計画表を作成し、計画的な学習をするよう指導するとともに、進路講演会や学年集会を実施し、進路意識を高めた。また、12月に三者懇談会を実施し、現状認識と3年0学期を強く意識し、新課程入試に対応できるよう早期受験態勢作りの必要性の認識を図った。		
		○第3学年ー学習計画表作成・センター試験対策講座の実施等により、受験学力の養成と行事からの切り替え指導を効果的に行う。	4:取組により学力が著しく向上した。 3:真剣に取り組み多くの生徒が伸びた。 2:取組んだが効果が十分現れなかった。 1:受験体制への切り替えが遅れた。	3	学習計画表を作成し、計画的な学習をするよう指導するとともに、学年集会やLHR等で進路に関する全体指導を実施した。また、文化祭直後にセンター試験対策講座や全員受験模試の実施等により切り替え指導を行った。また、課外を継続実施、大学別模試、小論文講座等を行うことで生徒の学力向上を図った。		
教育相談課	○人権に配慮した指導の充実	○教職員の人権意識を高めるための校内研修を充実させ、地域・保護者から信頼されるよう努める。	4:取組により意識が著しく向上した。 3:真剣に取り組み多くの生徒意識が変わった。 2:取組みの成果が十分現れなかった。 1:意識の切り替えが遅れた。	4	学校教育のすべての場面で、真剣に配慮した言動ができるよう教職員の合意ができた。人権教育後援会では、SNSの使用をめぐる配慮の必要性を学ぶことができた。	○スクールカウンセラーを活用した教員研修会や校内カンファレンス会議が定期的に行われるのは望ましいことである。 ○より組織的な教育相談体制を構築してほしい。	B
	○早期対応による学校不適応の未然防止	○生徒の人権意識を育てるために日常生活全般で、人権に配慮し教育活動が行えるよう啓発する。	4:取組により意識が著しく向上した。 3:真剣に取り組み生徒の意識かなり変わった。 2:取組みの成果が十分現れなかった。 1:意識の切り替えが遅れた。	3	教職員が日頃から生徒の言動を把握し、問題が起こる前に指導することができた。		
	○教育相談体制の充実	○「教育相談だより」を定期的に発行し、生徒・保護者への情報提供を行う。 ○外部機関との連携を図り、多面的な対応が出来るよう努める。	4:取組により意識が著しく向上した。 3:真剣に取り組み多くの生徒・教職員の意識が向上した。 2:取組みの成果が十分現れなかった。 1:教育相談への意識の切り替えが遅れた。	3	定期的に「教育相談だより」を発刊し(現在3号)全校生徒・保護者に対して啓発活動を行った。		
		○スクールカウンセラーと連携し、生徒・教職員・保護者に対する啓発活動を一層充実させる。	4:取組により意識が著しく向上した。 3:真剣に取り組み多くの生徒・教職員の意識が向上した。 2:取組みの成果が十分現れなかった。 1:教育相談への意識の切り替えが遅れた。	4	事前に学級担任・養護教員を通じてSC予約をとり、一覧表を作成しカウンセラーと事前調整ができた。また、SCを困るの校内カンファレンス会議を定期的に行っている。		
	○特別な支援を必要とする生徒への対応についての共通理解	○特別な支援を必要とする生徒に対する、十分な指導計画を作成する。 ○生徒・教職員へ、特別な支援を必要とする生徒への理解と対応ができるよう啓発・研修を充実させる。	4:取組により特別な支援への理解が著しく向上した。 3:真剣に取り組み多くの生徒・教職員の意識が向上した。 2:取組みの成果が十分現れなかった。 1:特別な支援への意識の切り替えが遅れた。	3	特別支援委員会を通じて「特別な支援を必要とする生徒」の把握と経過報告を行っている。学年会とも連絡をとり関係生徒にとって最善の対応に心がけている。		
	図書視聴覚課	○読書活動の充実	○LHRでの図書館教育を実施し、感想文・作文・読書ノートを提出させる。	4:課題提出率は非常に良かった。 3:課題提出率は例年並みであった。 2:課題提出率は例年を下回った。 1:課題提出率が顕著に低かった。	3		
○図書室利用の促進とマナーの向上		○新着図書案内、図書新聞、特定テーマの企画展示、出張貸出等を行う。 ○必要性和分類バランスを踏まえた図書購入と除籍を行う。	4:利用者数が例年より多かった。 3:利用者数は例年並みであった。 2:利用者数がやや少なかった。 1:利用者数の減少が顕著であった。	3	前期分の図書の活動を計画通りに実施した。図書館の利用者数は例年並みである。		
		○図書室でのマナーおよび図書貸出規定の遵守を呼びかける。	4:常に快適に利用できる状態だった。 3:大きな問題点は感じられなかった。 2:時にマナー向上指導の必要を感じた。 1:利用マナーが悪かった。	4	図書室でのマナーは例年以上に良好である。		
○連携による視聴覚関係業務の推進		○校内の他分掌及び他校との連携により円滑な運営を行う。	4:行事等で円滑な運営ができた。 3:行事等でほぼ円滑な運営ができた。 2:運営に不備な点があった。 1:運営に不備が多かった。	3	他分掌との連携の元で前期の諸行事を終えた。		
厚生課	○校内美化の推進	○ゴミの分別指導の徹底	4:ゴミの分別が完全にできた。 3:ゴミ分別に対する意識が高まった。 2:分別が不十分なところが少しあった。 1:ゴミ処理のマナーが低調であった。	4	生徒のゴミの分別意識はおおむね形成できたように思う。特高祭でのごみは昨年より大量に出たが、分別には積極的・協力的で、よくできた。	○周南地区の小中学校では、「無言掃除」を徹底しており、その取組の効果が認められているので、高校でも入学時から継続して続けるとよいのではないか。	B
	○生徒の清掃態度・意識を高める。特にトイレの清掃・整理整頓を徹底する。	4:生徒は非常に意欲的に取り組んだ。 3:ほぼ期待通りに生徒が取り組んだ。 2:生徒の取組状況に課題が残った。 1:生徒の取組み意欲が低かった。	3	掃除時間には遅れずに行き、おおむね真面目に取り組んでいる。昨年の徳高祭でのトイレの状況が良くないと意見があったが、今年はよく掃除ができていた。			
		○防火訓練の徹底	○迅速な避難と防火・防災意識の涵養を図る。	4:適切な避難訓練が実施でき、生徒の意識が非常に高まった。 3:適切な避難訓練が実施できた。 2:生徒の取組に課題が残った。 1:生徒の取組意欲が低かった。	3		
情報企画課	○機器と運用体制の安全性・可用性の向上と維持	○ソフトウェアの確実・迅速な管理により、機器と体制の安全性を確保する。	4:管理は迅速かつ十分であった。 3:ほぼ遅滞や漏れがなく管理ができた。 2:十分な管理ができないことがあった。 1:不適切で業務に支障を来した。	2	旧型機の更新を行ってきたが一部に年度を超えて残存するものがあり、更新用の機材に限られる中、協議して早急に撤去あるいは更新を行いたい。予算措置が望まれる案件である。	○達成度「2」が付いているが、施設面に関する項目なので教員の指導力とは無関係ではないか。 ○緊急メールの保護者登録率が60%であれば、未登録者はホームページを見て対応しているのか。	B
	○インターネット上と校内の情報資源の適切な利用及びその手段の周知を図る。	4:全員に十分な啓蒙ができた。 3:多数の教員生徒に啓蒙ができた。 2:取り組んだが徹底できなかった。 1:計画のみに終わった。	3	機器の不調や人的な錯誤による紛失と遺漏は生じておらず、校内情報の管理は信頼性を保った状態である。翻って、個人個人の携帯端末に端を発する事故はその発生を把握したおらず、今後とも注意と情報収集を要する。			
		○Webページ・緊急メール配信網の管理を適切に行い、校内外両方向への速達性を向上させる。	4:校内外での共有は完全であった。 3:現段階では特に問題はない。 2:今後改善すべき点がある。 1:運用に遅延や不足する部分が残っている。	3	緊急メール配信のアドレス登録数が千を超える中、不達の問い合わせも1桁台になり運用は軌道に乗っている。Webページはセンターでのサーバ更新に伴う調整作業などは必要であったが、協力を得て可用性を維持している。		

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
保健体育課	○たくましく生きるための体力の向上	○運動を楽しんだり、競い合ったりする中で、仲間との連帯感を大切に、自己の体力の向上と運動能力を向上させる。	4:常に仲間と運動を楽しんでいた。 3:仲間と運動を楽しむ生徒が多かった。 2:運動を楽しむ生徒が半数程度だった。 1:運動を楽しまない生徒が多かった。	4	持久走の授業では、個々の体力に応じて意欲的に取り組んでいた。	○マラソン大会のコースを変更しても、全員が歩かずに完走できることは素晴らしい。 ○「たくましく生きるための体力向上」の項目の評価規準に、「運動を楽しむ」ことしか記載がないのはいかがだろうか。	A
	○望ましい人間関係づくりの形成	○集団行動を通して、基本的な生活習慣を確立させる。	4:集団中の個々の意識は非常に高い。 3:集団中の個々の役割を知る者は多い。 2:集団行動になじまない生徒がいた。 1:集団中の個々の自覚がない者が多い。	4	年度初めの集団行動、授業開始時の集合時間厳守等の指導により、遅れてくる生徒もなく、チャイムの合図とともに授業が進行している。		
		○健康相談活動により、自分の思いや願いを話すことが出来る生徒、人との関わりができる生徒を育てる。	4:全員が人の気持ちを大切に行動した。 3:ほぼ人の気持ちを考え行動していた。 2:人への配慮をしない者が少しいた。 1:相談が必要な生徒が多数いた。	3	保健室との情報交換を密にし、生徒理解、生徒指導に取り組んでいるが、より保健室との連携を強化していきたい。		
理科	○科学的に考察し、処理する態度の育成	○3校(岩国/徳山/山口)合同理数科セミナー(1年)、大学訪問(2年)を実施する。SSH課題研究で各自のテーマの他に島田川の水質調査を実施する。	4:セミナー等の目的を十分達成できた。 3:セミナー等の目的をほぼ達成できた。 2:達成したが今後改善の余地がある。 1:次年度への課題がいくつかある。	4	効果的な3校合同セミナーを実施することができた。大学訪問では、山口大学理、農、工、医学部、に加えて九州工業大学の情報工学分野の体験学習を実施することができた。2年課題研究で、自分の設定した研究に加えて、秋に島田川の水質調査ができた。	○SSHに関する取組が充実している。今後も様々な成果を次期指定で継続し、学校の特色づくりとしてほしい。	A
	○SSHの活用による理数科の活性化	○SSHによる学校設定科目を効果的に実施し、理数科の活性化に結びつける。	4:教育効果の高い活動が十分できた。 3:SSHの活動がほぼ予定通りできた。 2:SSHの活動の一部がやや遅れた。 1:予定していた活動ができなかった。	4	1年SSH基礎、情報科学、ライフサイエンス(保健)、2年SSH応用(数学)、ライフサイエンス(家庭)、SSH課題研究、3年SSH応用(英語)において、生徒が意欲的に活動している。		
		○SSHを活用し、企業・大学との連携を進めていく。	4:教育効果の高い活動が十分できた。 3:SSHの活動がほぼ予定通りできた。 2:SSHの活動の一部がやや遅れた。 1:予定していた活動ができなかった。	4	SSH基礎、ライフサイエンスにおいて3回の山口大学特別講義を実施した。企業連携活動では、(株)トクヤマで体験学習を実施することができた。		
第1学年	○主体的な学習態度の確立	○予習・授業・復習のサイクルを定着させ、主体的に学習に取り組む習慣をつけさせる	4:主体的な学習態度が十分定着した。 3:主体的な学習態度が概ね定着した。 2:主体的な学習態度があまり定着しなかった。 1:主体的な学習態度がほとんど定着しなかった。	3	各教科において、予習-授業-復習といった主体的な学習習慣の定着をはかっている。予習・復習が不十分な生徒も見られるが、教科担当と担任で連携を取りながら指導を続けている。また、各種課題や小テストの事後指導等についても粘り強く継続的に行っており、引き続きサポートをしていきたい。	○入学当初のしつけ(特に、情報モラル・スマホ使用制限等の規範意識)については、今ままでおど、きめ細かな対応が必要である。 ○入学時のガイダンスを充実して、基礎的な学力・学ぶ意欲・基本的な生活習慣をしっかりと身に付けてほしい。	A
	○基本的な生活習慣の定着	○挨拶の励行、言葉遣い、時間厳守、遅刻・服装などの指導を通して規範意識を高めさせる	4:規範意識が十分についてきた。 3:規範意識が次第に高くなってきた。 2:規範意識に大きな変化はなかった。 1:規範意識に欠ける者が増えてきた。	3	比較的元気な生徒が多い学年で、全体的には遅刻・欠席も少ない。携帯電話の使用に関して、年度当初、指導を要する生徒が多かったが、担任や生徒課の指導を素直に聞き入れ、改善が見られている。		
	○生徒の問題への早期対応	○生徒と積極的に関わり合いをもち、各教員との連携を図り、組織的に生徒・保護者への支援を行う	4:適切な連携がとれ問題を十分解決できた。 3:様々な連携のもと多くの問題を解決した。 2:連携は図られたが問題も残った。 1:連携が不十分で問題を多く残した。	3	生徒の問題について、教育相談課と連携を取りながら早期に対処している。特に、特別支援を要する生徒や不登校傾向の生徒には、必要があれば外部の関係機関とも連絡をとりながら指導をしている。今後出てくるであろう学業不振により苦悩する生徒に対しても、教員間で連携を取りながら密に指導していきたい。		
第2学年	○学習に対する意識の高揚	○学校の授業を中心とした主体的な学習を通じて学力の向上を図る。また、学問に対する興味・関心を深め、学ぶことに対する意義や意識をより高める。	4:主体的な学習態度が十分定着し、学ぶ意識が非常に高まった。 3:主体的な学習態度が概ね定着し、学ぶ意識が高まった。 2:主体的な学習態度があまり定着せず、学ぶ意識があまり高まらなかった。 1:主体的な学習態度が定着せず、学ぶ意識が身につかなかった。	4	生徒の中には、学習に対する意識があまりなく、朝の小テストや週末課題への取り組みが不十分な者が見られる。しかし、テストの再試験、課題提出の徹底、及び個人面談指導により、自分の進路を見据えた学習への意欲が徐々に高まっている。この機を逃さず学年全体の学習意欲の向上を図りたい。	○生徒全体が落ち着いておっとりしている雰囲気があるので、その良さを継続しながら、3年生としての自覚をもたせてほしい。 ○進学体制についても、生徒自身が3学年0学期を意識して、部活動や行事との両立を成し遂げてほしい。	A
	○基本的な生活習慣の確立と特別活動を通じての人間形成	○挨拶の励行、言葉遣い、時間厳守、遅刻・服装などの指導を通じて規範意識を高め、自己管理能力の育成を図るとともに、諸行事や部活動を通じてより高い人間力を育成する。	4:規範意識が十分に身につく、特別活動にも積極的に参加した。 3:規範意識が次第に高くなってきており、特別活動への参加も見られた。 2:規範意識に欠けるところもあり、特別活動への参加も消極的であった。 1:規範意識に欠ける者が増え、特別活動への参加も非常に悪かった。	4	全体的には落ち着いており、情報モラルも良い方向に定着している。学校生活が弛みがちな2年生ということもあり、2~3人の遅刻常習の生徒には、保護者とともに根気強く指導していきたい。修学旅行では、時間を厳守した規律正しい行動がとれ、有意義な行事にすることが出来た。学校生活における規範意識が育まれ、豊かな人間性に結びついていると実感している。		
	○生徒の問題への早期対応	○生徒と積極的に関わり合いをもち、各分掌・教員との連携を図りながら、組織的に生徒や保護者への支援を行う。	4:適切な連携がとれ問題を十分解決できた。 3:様々な連携のもと多くの問題を解決した。 2:連携は図られたが問題も残った。 1:連携が不十分で問題を多く残した。	3	学年の担任団の情報共有や連携は、特に問題なく上手に行われている。進路目標に対する学力の差に、ストレスを感じ、教育相談、生徒指導課、及び養護教諭の指導を仰いでいる生徒もおり、解決は簡単にはできない様子もあるが、粘り強く取り組んでいきたいと考えている。		
第3学年	○学力の向上および進路指導の充実	○学校の授業を中心とした自立的な学習を通じて、生徒一人ひとりの進路に対応できる学力の充実・向上を図る。また、進路目標をより明確にさせ、その実現に向けた努力に集中できるように、面談やLHRなどのきめ細かい指導を実施する。	4:ほぼ全員の生徒が学力を向上させ、さまざまな進路指導も十分行われた。 3:過半数の生徒が学力を向上させ、進路指導も十分行われた。 2:学力を向上させた生徒が少なく、進路指導に不十分などところもあった。 1:ほとんどの生徒が学力を向上できず、進路指導も不十分であった。	3	面談などを通して、進路希望も具体的、現実的なものになりつつある。学校行事後の切り替えも、大体においてはよく切り替え、集中して学習に励んでいる。ただ、思い通りの結果が出ず、不安を抱えている生徒も多いので、目標を見失うことなく頑張らせていきたい。	○先生方が1年生の時から手のかかる生徒の支援を熱心に行っていたおかげで、今の3年生は本当に信頼できる人物に成長したと感じる。 ○センター試験後の1月・2月の進路指導(個別指導も含めて)は大変熱心に行われており生徒・保護者は感謝している。	A
	○学校行事に向けた新たな取り組みの確立	○学校行事が生徒の人的成長を促す活動の場となり、勢いのある学校づくりの中心的活動の一つとなるよう生徒を見守り支援する。また、二大行事と受験勉強との両立を実現するための新しい取組(工夫・改善)を進める。	4:新しい取り組みが十分機能し、生徒の活動・成長に大いに役立った。 3:新しい取り組みが機能し、生徒が積極的に活動した。 2:新しい取り組みがあまり機能せず、生徒が積極的に活動できなかった。 1:新しい取り組みが全く機能せず、生徒のさまざまな活動機会が失われた。	3	運動会の応援風景の練習については、今年度より新たに「学校内で時間を決めて実施する」というようにしたが、生徒課との協力により、場所や時間もよく守られていたように思われる。また、リーダーシップをよく発揮し、教員ともよく話し合いながら進めていく態度は、大きな成長の跡が見られた。		
	○悩みや問題を抱える生徒への早期対応	○様々な場面で生徒と積極的に関わり合いをもち、各分掌・教員との連携を図りながら、悩みや問題を抱える生徒・保護者への支援を組織的・継続的に行う。	4:適切な連携・支援が十分行われ、ほぼ全ての問題を解決できた。 3:適切な連携・支援が行われ、多くの問題を解決した。 2:連携・支援に不十分などところがあり、対応できない問題があった。 1:連携・支援が不十分で、多くの問題に対応できなかった。	3	保護者や各分掌と連絡を取りながら、また、担任間での共通理解を取りながら、生徒の悩みを早めに捉え対処するように努めた。今までのところ、不登校などの顕著な例はないが、不安を抱えているものも多く、今後とも、励ましながら頑張らせていきたい。		
業務改善	○学校の組織等	○本校全日制・定時制・両分校の円滑な運営のための連携体制を確立する。	4:全教職員の協力の下、円滑に実施することができた。 3:円滑に実施できた。 2:改善すべき点があった。 1:改善すべき点が多かった。	3	円滑な運営に資するよう、全日制・定時制・両分校の教頭の連絡会を2回実施し、各行事やその日程等について調整等を行った。	○各学年団が主導となって物事が円滑に進んでいることは好ましいが、持続可能な組織力を備えるためには、2月の時点で、次年度の基本方針や重点課題を協議・設定する機会を設けて、PDCAサイクルをきちんと回していく運営体制が必要ではないか。 ○健全な職場づくりには、職員間の信頼関係と円滑な「報告・連絡・相談」が不可欠である。	B
	○校務の円滑な運営と組織力の向上	○進学校として、生徒一人ひとりの進路実現に向けた組織的な取組を進めつつ、文武両道の継承や体験活動の重視を意識した上で、教職員の多忙感の解消に向けた二大行事の具体的な工夫改善を図る。	4:全教職員の協力の下、円滑に実施することができた。 3:円滑に実施できた。 2:改善すべき点があった。 1:改善すべき点が多かった。	3	進路指導については、旧3学年・新学年の情報交換会等を催し、進路課を主体とした組織的な体制づくりを推進した。		
	○日常的な業務	○報告・連絡・相談・提案・質問の流れを重視した職場環境を構築するとともに、全教員の元気とやる気の生まれる職場の組織的な人間関係づくり(ラインケア)を進める。	4:全教職員の協力の下、円滑に実施することができた。 3:円滑に実施できた。 2:改善すべき点があった。 1:改善すべき点が多かった。	3	全体的に報告・連絡・相談の流れを重視した職場環境が構築されている。		

4 自己評価					5 学校関係者評価	
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	
<b>6 学校評価総括(取組の成果と課題)</b>						
<p>① 総務課 式典・行事については、教職員の連携、学校とPTAとの連携により円滑に行うことができた。本・分校の連携については、完全2分校体制のもと、入学式の合同開催や教員研修会の参加等を行った。ホームページについては、「徳高ジャーナル」によるタイムリーな情報発信が始まり、少しずつ充実してきた。</p> <p>② 教務課 総合的な学習の時間を中心に、様々な取組によって充実したキャリア教育を行うことができた。単位制導入に伴い、理系・文系の特色を生かした教育課程を編成した。新教育課程の実施は、担任の指導が個に応じた具体性をもたせることができた。課題としては、科目選択等のガイダンスをより組織的に行うこと、校務支援システムの円滑な活用等があげられる。</p> <p>③ 生徒課 生活指導については、必要に応じて保護者との連携を取りながら全教員で年間を通して実施した。交通安全指導・生活安全指導では、街頭指導・車中指導を節目に応じて関係機関や地域の協力を得ながら行うことができた。二大行事の準備活動では、日程的に厳しい中、生徒はよく工夫しながら意欲的に取り組み多くの生徒が満足できる活動となった。部活動も県大会での活躍や上位大会への出場が相次ぐなど好成績を挙げた。課題としては、登下校中の校内外のマナー指導、二大行事では事前指導における学習とのバランスなどが挙げられる。</p> <p>④ 進路指導課 面談週間、模擬試験、課外の実施を通じて、進路意識や受験勉強への意識を高め学力向上につなげることができた。進路だより、進路講演会、オープンキャンパスへの学校参加等により進路意識が高まった。1学年は「学習オリエンテーション」等の4月当初の取組により高校の学習によりスムーズに適応、週末課題の提出や学習計画表の作成を通じて、概ね学習習慣が定着した。2学年は、学習計画表の作成、進路講演会・学年集会・三者懇談会等により、現状認識と次期3年として早期の受験態勢づくりを行い、進路に対する意識が高まった。3学年は、学習計画表の作成、学年集会やLHR等で進路に関する全体指導を実施した。徳高祭直後には、センター試験対策講座や全員受験模試の実施等により切り替え指導を行った。課外は継続実施、大学別模試、小論文講座等を行い、生徒は粘り強く学習に取り組んだ。課題としては、課外について今後内容や教科等をさらに充実させることが挙げられる。</p> <p>⑤ 教育相談課 人権教育校内研修会、教育相談研修会、人権教育講演会は外部講師やSCにより効果的な研修、学習を行うことができた。生徒支援については、学年会への参加、Σ検査や生活意識調査を実施して実態把握に努めるとともに、健康観察や保健室来室状況などを把握して、必要に応じて外部機関(医療関係)と円滑な連携を取り、対応を適切に行うことができた。特別支援についても、支援計画に基づく支援方法を共有し、全教職員が支援の方法を確認して取り組むことができた。課題としては、多様な生徒への支援の在り方のノウハウをさらに定着させることが挙げられる。</p> <p>⑥ 図書視聴覚課 読書活動は、新着図書案内、図書新聞、特定テーマの企画展示、出張貸出等を計画通りに実施するとともに読書感想文等の提出も良好な状況であった。図書室でのマナーも良好である。貸し出し図書の延滞が一部の生徒にあったため指導を行った。視聴覚機器は、使用方法の周知により使用者ごとの円滑な利用ができた。課題としては、書棚があふれてきたことから、計画的な除籍が必要であることがあげられる。</p> <p>⑦ 厚生課 ゴミ分別方法がほぼ定着してきており、教室内の清掃・ゴミの分別はよくできている。掃除に対して生徒は概ね真面目に取り組んでいる。6月の避難訓練は予定どおり適切に行うことができた。課題となっていた雨天時の避難訓練は、VTRを使用して効果的に実施した。</p> <p>⑧ 情報企画課 IDOS機の更新も年度内に終了する予定である。校内情報は遺漏・紛失などは発生しておらず適切に運用されている。即時性のある更新と伝達を行う運用の体制は整いつつある。課題としては、運用の手順の文書化・見える化を行う業務内容が増えていることがあげられる。</p> <p>⑨ 保健体育課 授業開始時の集合時間厳守の指導を徹底して行った結果、総務委員を中心とした自主自律的な行動がとれるようになってきた。課題としては、総務委員のリーダーシップの育成とともに周囲の生徒のフォローシップの育成を図ることで集団の意識をさらに高めていきたい。</p> <p>⑩ 理数科 3校合同セミナー、大学訪問、企業体験学習等を効果的に実施することができた。2学年の課題研究、1学年のSSH基礎、情報科学等各科目において生徒が意欲的に活動することができた。課題として、次年度は第Ⅰ期の最終年度となり、第Ⅱ期申請を控えて現状の取組をどのように深化・充実させるかを検討する必要がある。</p> <p>⑪ 第1学年 挨拶や時間厳守などの基本的な生活習慣については、生徒の意識も高まってきた。夏休み前期課外を全員受講にしたり、放課後の補習をきめ細かく行ったりすることによって、学習習慣の定着がみられた。また、秋季希望者課外の実施によって、目標をしっかりと持っている者も自分の将来像を描いて主体的に学習に取り組むようになった。課題として、学習意欲が十分でない者や学習成績の低迷等に対するストレスから不適応を起こし不登校に陥りそうな者に対し、学校生活の充実に向けて学校と家庭が連携して適切な支援を行うことがあげられる。</p> <p>第2学年 個人面談や三者面談の実施により、各自で進路目標を考えさせることができ、学習に主体的に取り組む生徒が増えてきた。文武両道を目指して頑張っている生徒も多く、学校行事やクラス参加の行事等でも積極的に取り組み元気に活動している者が多い。課題として、学習面や進路について悩みを抱えている生徒、家庭環境で悩みを持っている生徒がおり、関係教員や家庭と連携を取り適切な支援を行うことがあげられる。</p> <p>第3学年 年間を通して個人面談・三者懇談やLHRなど様々な場面を通してきめ細かく指導を重ねることができた。授業とともに小テストや課外授業など平素からのきめ細かな指導によってセンター試験に対する基礎学力、志望している国公立・私立大学の個別試験に対する学力が身についた。行事に関しては、多くの生徒が学校行事に関わる活動を通じて、仲間と協力し合う大切さや下級生を指導する難しさなど、教科活動では得られない有意義な経験をした。行事の終わった後期は、早朝、昼休み及び放課後の自習室において、自習に励む生徒が増え、生徒のやる気が大きくなっている様子が感じられた。生徒の学校生活上の諸問題については、担任・学年団を中心に情報交換を行いながら早期対応を行った。家庭環境等、学校外での難しい問題を抱える生徒もおり、解決までの道のりが厳しいケースもあったが、教員間で連携を取りながら適切な支援・指導を行うことができた。</p> <p>⑫ 業務改善 分校における学校行事や会議等に副校長が出席することで、学校長の負担を軽減するとともに、本分校間のスケジュールを適正に管理することにより、本校と二分校間の連携が強化され、学校全体として円滑な校務運営が進み、組織力が向上した。また、単位制導入・徳高型アクティブラーニングによる授業改善に加えて、SSH次期指定に向けた学校の特色づくりの明確な中長期的なプランも明確となった。課題としては、二大行事の具体的な工夫改善を実施することがあげられる。</p>						

7 次年度への改善策						
<p>① 総務課 式典・行事・研修会等の連携について、2分校体制を踏まえて更なる円滑な連携を行うとともに、分校生徒の本校行事への参加について検討する。ホームページの充実については、保護者や中学校のニーズに応えた情報発信を充実する。</p> <p>② 教務課 単位制導入に伴う科目選択等のガイダンスをより組織的に行う体制を確立すること、校務支援システムの円滑な運用に向けたハード面の環境整備と校内研修の実施。</p> <p>③ 生徒課 登下校時の交通指導や校内外のマナー指導の充実、二大行事における学習とのバランスの取れた準備活動を工夫すること。</p> <p>④ 進路指導課 個に応じたきめ細かな進路指導を継続すること、学習計画表の作成等による主体的な学習習慣の定着を指導すること、課外について今後内容や教科等をさらに充実させること、上位・中位・下位の全ての学力の伸長を図ること。</p> <p>⑤ 教育相談課 引き続き効果的な研修会、講演会等を実施するとともに多様な生徒への支援の在り方のノウハウをさらに定着させること。</p> <p>⑥ 図書視聴覚課 読書活動の一層の推進と図書室利用マナーの更なる向上。</p> <p>⑦ 厚生課 校内美化の一層の推進避難訓練の効果的な実施。</p> <p>⑧ 情報企画課 セキュリティ体制の一層の強化、緊急メールの携帯端末への適切な配信対応。</p> <p>⑨ 保健体育課 個々の生徒に応じた全体指導、個別指導の充実をはかるとともに、総務委員のリーダーシップ、周囲の生徒のフォローシップの定着を図ること。</p> <p>⑩ 理数科 第Ⅰ期の成果と課題を踏まえ、第Ⅱ期指定における取組を充実・展開させる。</p> <p>⑪ 各学年 具体的な進路希望を定めさせ、その実現に向けての方策を考えさせるとともに、受験意識を高くもって主体的に学習に取り組ませること。行事等を通して全体への配慮やリーダーシップ等将来社会で活躍するための高い人間力を育成すること。支援を必要とする生徒への家庭との連携による継続的な支援。</p> <p>⑫ 業務改善 本校全日制・定時制・両分校の円滑な運営のための連携体制を確立するとともに、「報告・連絡・相談」の流れを意識した組織づくりに努める。徳高型アクティブラーニングの実践による授業改善を一層推進するとともに、二大行事と進学指導の両立に向けた具体的な工夫・改善を実践すること。</p>						